

特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ 設置 ~~（使用、変更）~~ 届出書

提出日を記載

令和〇年〇月〇日

群馬県知事 あて

前橋市大手町1-1-1

届出者 群馬県庁工業株式会社

代表取締役 赤城 太郎

水質汚濁防止法第5条第1項、~~第2項又は第3項（第6条第1項又は第2項、第7条）~~の規定により、特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		群馬県庁工業株式会社 環境保全課工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地		藤岡市〇〇□□-□	※受理年月日	年 月 日
第5条第1項関係	特定施設の種類	第65号 酸またはアルカリによる表面処理施設 第66号 電気めっき施設	法施行令別表1に掲げる番号及び名称を記入（複数ある場合は、代表的なものを記入）。	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 ☒ 無 ☐		
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	第5条第1項関係…公共用水域に水を排出する者が、特定施設を設置、構造変更するとき。 群馬県内には総量規制指定地域は無いため、別紙5については、作成不要。	
	△特定施設の設備（有害物質使用特定施設の場合に限る。）	別紙1の2のとおり。		
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
△排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。			
第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類		第5条第2項関係…有害物質使用特定施設に係る汚水等を地下浸透させる者が有害物質使用特定施設を設置、構造変更するとき。	
	△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。		
	△有害物質使用特定施設の使用の方法	別紙8のとおり。		
	△汚水等の処理の方法	別紙9のとおり。		
	△特定地下浸透水の浸透の方法	別紙10のとおり。		
	△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統	別紙11のとおり。		

様式第1（第3条関係）（裏面）

第5条第3項関係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	☐ 有害物質使用特定施設 ☐ 有害物質貯蔵指定施設	第5条第3項関係… ①下水道に排水の全量を排出等している者が有害物質使用特定施設を設置又は構造変更するとき ②有害物質貯蔵指定施設を設置又は構造変更するとき
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙12のとおり。	
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙13のとおり。	
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙14のとおり。	
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統	別紙15のとおり。	

- 備考
- 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる号番号及び名称（指定地域特定施設にあつては、名称）を記載すること。
 - 2 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものにレ印を記入すること。なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙1の2を提出することを要しない。
 - 3 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当する施設にレ印を記入すること。
 - 4 △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
 - 5 ※印の欄には、記載しないこと。
 - 6 排水水の排水系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
 - 7 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
 - 8 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

特定施設の構造

工場又は事業場における施設番号	0 0 1	0 0 2	工場又は事業場内での施設番号を記入。
特定施設号番号及び名称	6 5 号 酸又はアルカリによる表面処理施設	6 6 号 電気めっき施設	法施行令別表 1 に掲げる番号及び名称を記入。(以下、同様)
型 式	1 R - 5 型 (半自動型)	1 P - 6 型 自動めっき施設 (全自動型)	量産品はメーカー型式、カスタムメイドは任意の型式を記入。全自動、半自動、手動の別を記入。
構 造	鉄フレーム 塩化ビニール製 耐薬品仕上げ	鉄フレーム 塩化ビニール製 耐薬品仕上げ	施設の材質を記入(例:鉄製、木製)。別に構造図を添付する。
主 要 寸 法	L 1800mm W 800mm H 1800mm 別添○のとおり	L 6000mm W 800mm H 1800mm 別添 3 のとおり	施設の縦・横・高さ等を記載。別添構造図への記載でも可。
能 力	電気めっきジグ 1 0 0 個/日	プリント基板 1 0 0 0 個/日	当該施設の 1 日あたりの処理能力を重量等で記載(単位を確認すること)。Okg/時、O個/日、Om3/時、O%(平均)等
配 置	別添 1、2 のとおり	別添 1、2 のとおり	工場全体における特定施設の位置が確認できるようなものとする。他の図面との併用可。複数の施設について 1 つの図で確認できるものが望ましい。
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	使用又は変更届の場合のみ記入。
工事着手予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	設置届及び構造等変更届の場合は、各予定年月日を記載。
工事完成予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	
使用開始予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	
その他参考となるべき事項	施設老朽化による更新新規設置 床面及び周囲 ・施設下部及び周囲は、コンクリート製床にフラン樹脂で被覆。 ・施設周囲に防液堤(容量○○L)を設置。 ・詳細は別添 2 のとおり	施設老朽化による更新新規設置 床面及び周囲 ・施設下部及び周囲は、コンクリート製床にフラン樹脂で被覆。 ・施設周囲に防液堤(容量□□L)を設置。 ・詳細は別添 2 のとおり	届出事項の発生理由、経緯を簡潔に記載。[例:施設の老朽化による更新のため→別途廃止届が必要] 有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載。防液堤がある場合はその容量を記載。 防液堤の容量≧有害物質を含む水について想定される流出量であること。

- 備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。
- 2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

特定施設の設備

有害物質を含む水が流れる設備がない場合は、添付不要。

工場又は事業場における施設番号	0 0 1	0 0 2	
特定施設号番号及び名称	6 5 号 酸又はアルカリによる 表面処理施設	6 6 号 電気めっき施設	
設 備	【排水溝等】地上転がし排水配管、ピット及び地上排水配管	【配管】地上配管 【排水溝等】排水地上配管及びピット	施設に付帯する配管等、排水溝等の設備の名称を記載。 設備の材質を記載するとともに、検知設備を有する場合にはその旨を記載。
構 造	地上転がし排水配管及び地上排水配管：塩ビ製 ピット：コンクリート製側溝に F R P を施工。	地上配管、地上転がし排水配管及び地上排水配管：塩ビ製 ピット：コンクリート製側溝に F R P を施工。	
主 要 寸 法	地上転がし排水配管： 直径100mm×5m 地上排水配管： 直径150mm×10m H200mm×20m ピット： W0.5m×D0.5m×H0.5m	地上配管及び排水地上配管： 直径100mm×40m 地上排水配管： 直径150mm×10m H200mm×20m ピット： W0.5m×D0.5m×H0.5m	設備のうち、主なものについて寸法を記載。
配 置	めっき工場 1 階 (配管図は別添 2 のとおり)	めっき工場 1 階 (配管図は別添 2 のとおり)	
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	使用又は変更届の場合のみ記入。
工事着手予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	設置届及び構造等変更届の場合は、各予定年月日を記載。
工事完成予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	
使用開始予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	
その他参考となるべき事項		地上配管は、有害物質を含む水の漏えいが目視により容易に確認できるように床面から離して設置	有害物質使用特定施設の設備について、構造基準適合状況が確認できる内容を記載させることが望ましい。

備考 1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。

2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

特定施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		0 0 1		0 0 2		
特定施設号番号及び名称		6 5 号 酸又はアルカリによる表面処理施設		6 6 号 電気めっき施設		
設 置 場 所		別添図面 1 のとおり		別添図面 1 のとおり		別紙 1 「配置」と同様。
操 業 の 系 統		別添 4 のとおり		別添 4 のとおり		原材料(資材)が、工場に入るところから、製品として出るところまで記載し、特定施設を着色する等、明示するとともに、給水と排水、廃液の発生があれば、その旨も記載した系統図を添付。
使 用 時 間 間 隔		8 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 1 3 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0		8 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0		
1 日 当 た り の 使 用 時 間		9 時 間		8 時 間		1 日 の 総 使 用 時 間 を 記 載。
使用の季節的変動		なし		なし		変動がある場合、時期を記載。施設使用状況や原材料の使用量、汚水排水の量、水質等全てについてその時期別に書類を別途添付。
原材料(消耗資材を含む。)の種類、使用方法及び1日当たりの使用量		原材料名：硝酸 使用方法：10%溶液としてめっき皮膜除去。 使用量：原液（78%）として30L/日		原材料名：①硝酸、②硫酸ソーダ、③塩化ニッケル、④クロム酸 使用方法：①原液のまま脱脂剤として使用。②～④1%水溶液とし、めっき剤として使用。 使用量：①原液10L/日、②10kg/日、③5kg/日、④2kg/日 詳細は別表1のとおり		商品名ではなく含有物質名を具体的に記入すること(別添のとおりとすることも可)。 商品名を使用する場合は、安全データシート(SDS)等を別途添付。
汚水等の汚染状態	種 類 ・ 項 目	通 常	最 大	通 常	最 大	当該施設からの汚水等の汚染状況について記載。 原材料から判断し汚水等に含有される項目(不純物等も含む)を記載。
	pH	1～2	2	1～2	2	
	BOD	80	100	20	100	
	SS	2000	2500	800	2500	
	n-hex抽出物質含有量	10	15	3	15	
	銅含有量	20	30	20	30	
	溶解性鉄含有量	15	20	15	20	
	クロム含有量	50	70	50	70	
	六価クロム化合物	0.1	0.5	1	2	
	(単位：pH（無単位）その他のもの（mg/L）)					
汚 水 等 の 量 (m ³ /日)		通 常	最 大	通 常	最 大	施設毎の汚水等の量を記入。
		10	15	30	40	
その他参考となるべき事項		○有害物質使用特定施設 ・毎日、運転前に施設の点検を行う。 ・汚水等は、排水処理施設へ排出。		○有害物質使用特定施設 ・毎日、運転前に施設の点検を行う。 ・薬液の交換は、1回/月程度、産廃処理。他は、排水処理施設へ排出。		有害物質使用特定施設の場合、その旨を記載。

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

別紙 3

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号	排水処理施設	合併処理浄化槽	工場又は事業場内での施設番号を記入。								
処理施設の設置場所	別添 1、5 のとおり	別添 1、6 のとおり	特定施設等の設置場所図面への内容の追加でも可								
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	使用又は変更届の場合のみ記入。								
工事着手予定年月日	○年○月○日	○年○月○日	各予定年月日を記載。								
工事完成予定年月日	○年○月○日	○年○月○日									
使用開始予定年月日	○年○月○日	○年○月○日									
種 類 及 び 型 式	P M－8 0 型連続式処理施設	E M－2 0 型合併処理浄化槽									
構 造	鉄筋コンクリート造	FRP製									
主 要 寸 法	別添 5 のとおり	別添 6 のとおり									
能 力	80m ³ /日	20m ³ /日	単位は一日当たりで記載								
処 理 の 方 式	中和・還元・凝集沈殿	接触曝気方式									
処 理 の 系 統	別添 1、2、5 のとおり	別添 1、6 のとおり	簡易な図を用い、発生源、処理施設、放流の様子がわかるように記載。								
集水及び導水の方法	別添 2 のとおり	別添 1 のとおり	給排水の系統が記入されていれば、特定施設等設置場所の図面で共用してよい。事業場全ての水(生活系を含む)について記載。								
使 用 時 間 間 隔	8：00～20：00	終日	「何時～何時」と記載。								
1日当たりの使用時間	12時間	24時間	1日の総使用時間を記載。								
使 用 の 季 節 変 動	なし	なし	変動がある場合別紙 2 に準じて書類を添付。								
消耗資材の1日当たりの用途別使用量	亜硫酸Na20kg/日、苛性ソーダ5kg/日、硫酸10kg/日、PAC5kg/日	次亜塩素酸Na 0.5kg/月	商品名でなく含有物質名を具体的に記入。商品名の場合は、SDSを添付。								
汚水等の汚染状態及び量	種 類 ・ 項 目	通 常		最 大		通 常		最 大			
		処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後		
	pH	1-2	7.0	1	7.0	6-8	6-8	5-9	6-8		
	BOD	20	10	30	10	200	20	600	25		
	SS	800	20	900	20	100	10	200	50		
	n-hex抽出物質含有量	3	1	5	1	10	1	50	20		
	銅含有量	20	2.0	30	2.5	-	-	-	-		
	溶解性鉄含有量	18	2.0	25	2.0	-	-	-	-		
	クロム含有量	20	1.0	25	1.0	-	-	-	-		
	六価クロム化合物	2	ND	4	0.05	-	-	-	-		
	(単位：pH (無単位) その他のもの (mg/L))										
	量(m ³ /日)		40	40	50	50	1	1	1.2	1.2	
残さの種類、1月間の種類別生成量及び処理方法	凝集沈殿物 2 t / 月 業者委託処理 (〇〇産業)				汚泥 業者委託処理 (〇〇環境)				廃棄物の種類ごとに記載。		
排出水の排出方法	別添 1 のとおり				同左				配置図等により、排水口の位置及び数並びに排出先を記載。		
その他参考となるべき事項	(株) 〇〇メンテナンスに管理委託 (2回/月)				(株) 〇〇環境管理に管理委託 (2回/年)				その他参考になるべき事項を記載。		

備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

2 排水の排出方法の欄には、排水口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場における施設番号		排水口 1 (生産系)		排水口 2 (生活排水)		排水口 3 (雨水)		
排水水の汚染状態	種 類 ・ 項 目	通常	最大	通常	最大	通常	最大	
								・ 排水口が複数ある場合、排水口別に記入。ただし、排水口は業務工程のみでなく、生活系、雨水系など全ての排水口について記載。
	p H	7.0	7.5	7.0	7.5			・ 特定施設における使用有無を問わず、各排出口から排出される排水に含まれる又は含まれるおそれのある項目を記載。
	B O D	10	15	15	20			
	S S	20	30	20	25			
	n-hex抽出物質含有量	1	2	1	5			
	窒素含有量	30	60	30	60			
	りん含有量	4	8	1	20			
	銅含有量	1.0	2.0	-	-			
	大腸菌群数	-	-	0	100			
	溶解性鉄含有量	0.5	1.5	-	-			
	クロム含有量	0.5	1.0	-	-			
六価クロム化合物	ND	0.2	-	-				
(単位：pH（無単位）その他のもの（mg/L）)								・ 各排出口における排水の汚染状態及び量について記載。 なお、事業者による自主測定は、「排水水の汚染状態」に記載されている項目について実施することとなる。
								・ 排水水の合計量が10m3/日未満の場合、記載不要。
排 出 水 の 量 (m ³ ／日)		通常	最大	通常	最大	通常	最大	・ 排水量は、排水基準の適用や、排水処理の能力の判断基礎になるので、日間平均、最大とも必ず記載。
		40	50	1	1.2	0	0	
その他参考となるべき事項								・ 季節変動がある場合は、その季節ごとに表を分ける又は別紙添付。

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

用水及び排水の系統

用水及び排水の系統	地下水 40m³/日 市上水道 1m³/日 雨水 剥離施設 10m³/日 電気めっき施設 30m³/日 生活用水 1m³/日 排水処理施設 40m³/日 排水処理施設 (合併浄化槽) 排水口 1 40m³/日 排水口 2 1m³/日 排水口 3 用水 ———→ 排水 - - - - ->																							
	用途別用水量	<table><thead><tr><th>用 途</th><th>使 用 水</th><th>用水量(m³/日)</th></tr></thead><tbody><tr><td>酸アルカリ系用水</td><td>地下水</td><td>10</td></tr><tr><td>電気めっき用水</td><td>地下水</td><td>30</td></tr><tr><td>生活用水</td><td>水道水</td><td>1</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> 用途については、使用用途（ボイラー用水、原料用水、洗浄水、冷却水等）を記入し、それぞれの使用量について記入。 ・用水量と排水量が整合性があること。 ・合わない場合はその理由を欄外に記すこと。 例）ボイラーによる蒸発 ○○m³			用 途	使 用 水	用水量(m ³ /日)	酸アルカリ系用水	地下水	10	電気めっき用水	地下水	30	生活用水	水道水	1								
用 途	使 用 水	用水量(m ³ /日)																						
酸アルカリ系用水	地下水	10																						
電気めっき用水	地下水	30																						
生活用水	水道水	1																						